

科目名	現代と人間			科目コード	11020		
英文名	Introduction to Contemporary Society Studies			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	本講は、現代社会に生きる私たちが直面するさまざまな課題とその解決に向けた多様な取り組みについて、建学の精神に基づき、共生と協働の観点から整理と解説を試みるものである。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 人間社会の諸問題を講義で解説した概念と理論を用いて説明することができる。 [到達目標②] 現代社会における共生と協働の実現を構想し自らの言葉で提案することができる。 [到達目標③] 身近な生活上の課題を発見し、科学的な思考に基づき説明することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学教育のスタートに当たり、思考力を広げ、深めていく力を養うための講義である。同時に具体的なテーマとして、現代社会の様々な問題点につき、体系的に理解することも目指す。						
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 日常生活の中で感じた疑問やバリアについて、体系的に整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学習した内容を可能な限り自己の問題意識や生活上の課題に接続させ、その解決や理解を深めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	・ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』書籍工房早山(2007) ・山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』中公新書(1999) ・山本哲士『ディスクール政治学 -フーコー、ブルデュー、イリイチを読む-』新曜社(1987)						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①](50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](30%)、・講義への参加状況(20%)						
成績評価基準	授業の狙いにおける学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日常生活におけるさまざまな事象や課題に関心をもち、今後の学びを展望しながら主体的に学習することが望ましい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

現代と人間

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー共生社会と協働のしくみー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2回	学習内容 予習 復習	「誰一人とりのこさない」持続可能な社会とSDGsの世界 持続可能な開発目標(SDGs)における17のゴールと169のターゲットを調べておくこと。 SDGsの課題と実現可能性について振り返り、自らの考えをまとめ理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	家族・ジェンダーの変化と「多様な性」の未来 家族の役割、ワークライフバランス、LGBT・SOGなどの用語や概念について調べておくこと。 講義の内容を振り返り、身近な課題に結びつけながら自らの考えをまとめ理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	少子高齢化と福祉の社会学 日本における少子高齢化がもたらすさまざまな社会問題について調べておくこと。 少子高齢化の背景と福祉の問題について振り返り、自己の考えをまとめ理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	民族の共生と「想像の共同体」 異文化理解の経験や世界の人々との共生の可能性について問題意識を涵養しておくこと。 多様な人々との共生や協働の実現に必要な取り組みについて振り返り、理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	観光とまちづくり 世界各地の観光資源、観光地・事業、みやげものなどについて具体的に調べておくこと。 観光による地域活性化・まちづくりの具体的な事例を整理し理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	環境問題と災害の社会史 地球温暖化に伴う環境変動、自然災害、公害などの具体的な事例や歴史を調べておくこと。 環境問題や自然災害が私たちの社会に与えた影響について自らの考えを整理し理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	BI(感情的知性):安心社会から信頼の構造へ 私たちがヒトやモノに「共感する」とはどのようなことだろうか、自らの考えをまとめておくこと。 信頼に基づく社会が生まれる要件について振り返り、共感の意味について理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	芸術、文化、サブカルチャー 芸術、文化、サブカルチャー(漫画、音楽、アニメ等)の具体的な事例について調べておくこと。 芸術・文化の領域が個人や社会を豊かにしている仕組みについて省察し理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	神話・伝説と現代社会 現代社会に伝承されている神話・伝説(都市伝説を含む)について事前に調べておくこと。 現代社会において神話・伝説が伝承・共有される理由や背景について振り返り理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	祈りの世界史 信仰の世界観、超自然的存在(妖怪、祖霊、神々など)の具体的な事例について調べておくこと。 私たちの暮らしの中にある日常と非日常という異なる原理の併存について振り返り理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	公衆衛生とQOL(ケアの社会学) QOL(Quality of Life)やケアの概念が生まれた歴史的背景や考え方について調べておくこと。 講義を振り返り、私たちにあって幸せな人生や質の高い生活とは何を意味するのか省察する。
13回	学習内容 予習 復習	象徴と境界理論 花言葉、誕生石など、身近な象徴の事例を発見し、表象の意味と過程について調べておくこと。 象徴と分類の体系について振り返り、分類困難な境界領域の論理について理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	対立の構造と共生の論理 世界中に看取される紛争や対立の事例をニュースや新聞などで調べておくこと。 紛争や対立を乗り越え多様な人々が互いに尊重して共生する社会の実現について考察する。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー個性の尊重と多様性の未来ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	人文科学と人間（日本語入門Ⅰ）			科目コード	11030		
英文名	Introduction to Cultural Sciences (Introduction to Japanese Linguistics I)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人類における長い進化の歴史を1つの枠組みとして、「人間」や「文化」、「言語」などに関する人文科学のさまざまな分野の知見を紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	人類の起源(ルーツ)について知り、他の動物とどのような点で異なる進化を遂げてきたのかを考えることで、人間としての自分や身の回りの他者を捉え直すことを目指す。 また、人間にとって不可欠である社会や文化がどのように形作られてきたのかを学ぶことで、現代社会における様々な問題や将来の社会に対する展望について考える力を養う。						
授業内容のレベル・関連科目	1年次生を対象とした必修の基礎科目であることから、内容については基本的に初学者向けになるべく平易な解説を行う。「自然科学と人間」、「社会科学と人間」、「人文科学と人間」の各科目で一体となっており、大学生としての幅広い教養への入門となっている。						
授業外学習(予習・復習)	自分自身を含め、「人間」やそれをとりまく「社会」というものがどういふものかについて日頃から関心を持ち考えておくこと。毎回の授業内容を振り返り、自分なりの要約(まとめ)を行っておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	ジョン・H・カートライト(著)、鈴木光太郎・河野和明(訳)「進化心理学入門」新曜社 ジャレド・ダイヤモンド(著)、倉骨彰(訳)「銃・病原菌・鉄—1万3000年におたる人類史の謎」草思社 その他授業内で適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	小テストおよび小レポート等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から自分自身を含めた人間やそれをとりまく社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

授業スケジュール

人文科学と人間(日本語入門Ⅰ)

1回	学習内容 予習 復習	ガイダンスー「人文科学」とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2回	学習内容 予習 復習	生物における進化のメカニズムー自然淘汰と進化的適応 生物の進化について自分なりに調べ考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3回	学習内容 予習 復習	人類の進化の背景ー気候変動、動物の分類と比較 気候区分や動物の分類について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4回	学習内容 予習 復習	動物としての「ヒト」ー身体・行動・社会構造 動物と異なる人間の特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5回	学習内容 予習 復習	脳と知能の進化ー脳の大きさとリスク、知能の起源 知能や頭の良さとはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6回	学習内容 予習 復習	「心」の進化ー感情の不偏性、性的魅力と進化、心の病と進化 人間の感情のはたらしきについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7回	学習内容 予習 復習	「文明」の誕生ー1万3000年前に何があったのか 人類の「文明」や「社会」とはどのようなものか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8回	学習内容 予習 復習	地理的環境と人類社会ー人口密度、環境の違いと社会の分化 「人口密度」について調べ、それが人間や社会にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9回	学習内容 予習 復習	文化とは何か①ー文化はどのようにして生まれたか 自身が育った社会における「文化」について調べ、その特徴や意味を考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10回	学習内容 予習 復習	文化とは何か②ー技術の伝播と受容 人類社会に大きな影響を与えた「発明」は何か考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11回	学習内容 予習 復習	文化とは何か③ー東洋文化と西洋文化 「東洋文化」と「西洋文化」について調べ、それぞれの特徴や違いを考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション①ー文字の誕生と伝播 人類はなぜ「文字」を必要としたのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション②ー会話の科学 「あいづち」にはどのような意味があるのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14回	学習内容 予習 復習	言語とコミュニケーション③ーコミュニケーションに必要なこと 「コミュ力」とはどういうものか、それが高い人や低い人の特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15回	学習内容 予習 復習	人文科学と人間ー授業のまとめ ここまでの学習内容を自分なりに整理しておくこと 学習した内容をふまえ、今後学習を深めたいテーマやトピックについて考えること

科目名	社会科学と人間（環境学入門）			科目コード	11040	
英文名	Intoroduction to Social Sciences (Intoroduction to Environmental Studies)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎ 1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○ 3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○ 5.学習の過程で発見した課題を探索する	○		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	社会科学は社会の真理を探究する学問であり、ここには法学や政治学、経済学、歴史学などが含まれる。社会科学の研究成果を踏まえて、わたしたちはどのように生きていけばよいのかを考へる。					
授業の狙い・到達目標	社会科学の長を理解し、基本的な知識を身につけることができる。身近なところから国際的レベルにまで存在する社会の諸問題に向き合うための知識を得ることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生のレベルとしては入門レベルである。 関連科目：法律学概論、経済学概論					
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。	授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間			
使用教科書	井手英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作 『大人のための社会科』（有斐閣）2017年					
参考書・その他教材	授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントする。					
成績評価方法	定期試験（70%）、レポート（30%）					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	社会問題に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

授業スケジュール

社会科学と人間（環境学入門）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2回	学習内容 予習 復習	GDPについて 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3回	学習内容 予習 復習	勤労について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4回	学習内容 予習 復習	時代について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5回	学習内容 予習 復習	多数決について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6回	学習内容 予習 復習	運動について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7回	学習内容 予習 復習	私について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第7回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
9回	学習内容 予習 復習	公正について 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10回	学習内容 予習 復習	信頼について 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11回	学習内容 予習 復習	ニーズについて 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12回	学習内容 予習 復習	歴史認識について 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13回	学習内容 予習 復習	公について 教科書第11章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14回	学習内容 予習 復習	希望について 教科書第12章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	自然科学と人間（現代科学入門）			科目コード	11050	
英文名	Introduction to Natural Sciences (Introduction to Contemporary Sciences)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	呉 蔭		教員コード	157	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探索する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	自然科学の進歩は著しく人間の生活・生産、自然環境に大きな影響を与えている。本講義での学習を通じて、自然科学が人間活動と自然環境に与える影響力を理解し、自然科学がもたらしたプラスの影響とマイナスの影響を考えるための基礎を養う。本講義では、持続可能な社会の構築という視点からも考察を行う。					
授業の狙い・到達目標	自然科学の基礎知識を理解し、持続可能な社会の構築に対して自分で考えることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	本講義は、自然科学に関する入門編であるが、自然科学と社会発展の関係性を考える力が身に付く科目でもある。 本講義は、本学にある数少ない自然科学関連の科目である。					
授業外学習(予習・復習)	予習:積極的に配布資料等の予習を行う。 復習:配布資料等を復習し、基礎知識と考え方を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	担当教員が作成する配布資料 古川安著『科学の社会史:ルネサンスから20世紀まで』ちくま学芸文庫(2018)					
参考書・その他教材	参考書(授業のための購入は不要) 宮本憲一著『環境経済学』岩波書店(2007) 三浦慎悟著『動物と人間:関係史の生物学』東京大学出版会(2018)					
課題に対するフィードバック	翌週の授業時に解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出と授業中の発表(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	講義内容への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基づき、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	社会活動、自然現象と自然科学の関連性について自分なりに考える必要がある。考える力を養うことが大事である。					
科目に関連した教員の業務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面に対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。					

授業スケジュール

自然科学と人間（現代科学入門）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、自然科学に対する認識、基礎力テストと講評 シラバスを事前に確認する。 配布資料と基礎力テストの内容を復習し、学習のポイントと目標を明確にする。
2回	学習内容 予習 復習	自然科学とは何か 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、自分の考えと感想を400字でまとめて次回の授業で発表する。
3回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その1 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性を考える。
4回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その2 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性について考えを深める。
5回	学習内容 予習 復習	農業と公害、緑の革命、環境保全型農業 配布資料を予習し、事例に関して事前に調べる。 配布資料等を復習し、農業がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考える。
6回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その1 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性を考える。
7回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その2 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性について考えを深める。
8回	学習内容 予習 復習	工業の発展と公害問題 配布資料と教科書の指定ページを予習し、事例に関して事前に調べる。 工業化がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考え、発表内容を作成する。
9回	学習内容 予習 復習	前半(第1回から第8回まで)の復習、履修生による発表 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～8回の配布資料等を復習し、自分の考えを深めるようにレポートを作成する。
10回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その1(遺伝子組み換え問題) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、遺伝子組み換えのメリットとデメリットについて考える。
11回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その2(感染症とワクチン) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、生物学のプラスの側面とマイナスの側面について考えを深める。
12回	学習内容 予習 復習	自然科学と気候変動(地球の温暖化) 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学と気候変動の関連性を考え、次回の授業で発表する。
13回	学習内容 予習 復習	自然科学と再生エネルギー 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学、再生エネルギーと気候変動の関連性を考える。
14回	学習内容 予習 復習	生物の多様性と持続可能な社会 配布資料を予習する。 生物多様性、自然科学と持続可能な社会の構築の関連性を考える。
15回	学習内容 予習 復習	総括(第1回から第14回までの要点整理)、履修生による発表 第1～14回の講義内容を復習し、発表内容を作成する。 これまでの配布資料等を復習し、自然科学と人間活動の相互作用について考えを深める。

科目名	論理と表現（日本語入門Ⅱ）			科目コード	11060	
英文名	Logic and Expression (Introduction to Japanese Linguistics II)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	大屋 伸彦		教員コード	161	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とする。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学び、最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とする。					
授業の狙い・到達目標	1) 論理的な思考力、伝達したい情報の構成力を身につけること。 2) その思考を文章で表現する技術を身につけること。 3) 学術レポートが書けるようになること。					
授業内容のレベル・関連科目	おそらく、レポートや論文とは何かを初めて考える機会となるであろう。社会に出てから問題のない報告がかけられるレベルを目指したい。					
授業外学習(予習・復習)	シラバスを読んで予習復習を行うこと。毎回の授業で出す指示をよく聞いておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版』慶応義塾大学出版会					
参考書・その他教材	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫					
課題に対するフィードバック	授業中に小レポート、小テストを行い、その内容や出来を受けて、後の授業で理解を補強するための解説を行う。					
成績評価方法	最終レポート(40%)、中間レポート・授業中の課題(40%)、平常点(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	「単位を取る」ことが目標ではなく、「文章で人に情報を伝える能力を身につける」ことが目標という意識をしっかりと持ち、主体的に取り組むことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: ohya@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

論理と表現（日本語入門Ⅱ）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:授業の内容、進め方などについて学ぶ。 シラバスをよく読んでおく。 推薦した参考書や、類する書籍を探してみる。
2回	学習内容 予習 復習	レポートとはなにか、論文とはなにかについて学ぶ 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
3回	学習内容 予習 復習	説得力のあるレポート・論文を書くために何が必要か。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
4回	学習内容 予習 復習	読む力を鍛える。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
5回	学習内容 予習 復習	レポート作成の5ステップ。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
6回	学習内容 予習 復習	論文作成の5ステップ。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
7回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法① 題名の付け方、定義の仕方。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
8回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法② 引用の方法。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
9回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法③ パラグラフの書き方。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
10回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法④ 事実の意見を区別する。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
11回	学習内容 予習 復習	報告型レポートの作成 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
12回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成① 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
13回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成② 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
14回	学習内容 予習 復習	期末レポートの作成 テーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 レポート執筆をする。
15回	学習内容 予習 復習	まとめ:レポートの自己評価、相互評価、総括的な振り返り。 これまでの授業内容の要点をまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。

科目名	PBL演習（基礎演習）			科目コード	11070	
英文名	Practice of Problem-based Learning (Basic Practice for Academic Learning)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限	授業形態	演習	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業はPBL(問題解決型学習)形式の授業である。ここでは、「学習者が問題を発見し、解決の見通しをつけて実行し、何らかの形で結論を得るための学習法」を共通する要素とみなし、ProblemとProjectの双方を意識した演習形式で進行する。					
授業の狙い・到達目標	グループで課題を解決するための演習である。この演習を通して、問題解決の思考方法、フレームワーク及び仲間と協力して問題解決を図る協働スキルを習得できる。					
授業内容のレベル・関連科目	PBL、AL(Active Learning)の基礎／共通教養科目全般					
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	SDGs(Sustainable Development Goals)に関する文献およびWebsite全般					
課題に対するフィードバック	教員はファシリテーターとして、適宜学習促進の役割を果たす。					
成績評価方法	グループ内での活動状況(貢献と内容及び発表)(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段より新聞、テレビ、インターネット等を通じて、対象課題に関心を向けしておくこと。グループワークは、基本的にGoogle Classroomをプラットフォームとする。集合して作業を行う必要がある場合には、厳に三密を避けるなど感染症対策に留意すること。					
科目に関連した教員の業務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

授業スケジュール

PBL演習（基礎演習）

1回	学習内容 予習 復習	この演習の目的 — PBL(問題解決型学習)とは シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 PBLの事例について調査し、まとめておくこと。
2回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(1) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
3回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(2) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
4回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(3) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
5回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(4) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
6回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(5) — グループ毎に取り組み問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
7回	学習内容 予習 復習	グループ決定と計画作成 — 各グループ毎に作業手順や役割分担の決定 自分の希望テーマを明確にしておく。 GSE Classroomでグループ内コミュニケーションが図れることを確認する。
8回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(1) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
9回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(2) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
10回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(3) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
11回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(1) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
12回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(2) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
13回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(3) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
14回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(1) グループ毎に発表準備をする 発表の振り返りをする。
15回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(2) グループ毎に発表準備をする PBLのフレームワークを定着させる。

科目名	日本文化入門				科目コード	11080		
英文名	Introduction to Japanese Culture				科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単位数	2単位		
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限	授業形態	講義			
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	現在の日本文化は、各時代に花開いた様々な文化的が重層的に折り重なったものである。そうした観点に立ち、歴史的に日本文化の発展・変容を理解することを旨とする。							
授業の狙い・到達目標	歴史学習で重要なのは、政治・社会の流れのなかで各時代の文化的特徴を理解することである。その点を心掛けて講義を行い、学生は知識の断片にならない多面的な日本文化の理解に到達することができるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	内容は、講義名のとおりに、入門レベル。日本史概論や日本社会史が幕末から始まる近現代史であるのに対し、本講義は先史時代からの通史である。歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)が地域史として、また日本とアジアが、外交史として、古代・中世なども扱っている。							
授業外学習(予習・復習)	本講義では、世界遺産に登録されている文化遺産や寺社を多く扱う。「百聞は一見に如かず」であり、これらを実際に訪れてみることで、またそれらの紹介資料(ホームページ、紹介映像)を閲覧することが、予習・復習として効果的である。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。							
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。							
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。							
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)							
成績評価基準	授業の狙いこあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。							

授業スケジュール

日本文化入門

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2回	学習内容 予習 復習	石器時代から縄文時代まで。加曾利貝塚、三内丸山遺跡などを取り上げる。 加曾利貝塚や三内丸山遺跡の解説動画を見てみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3回	学習内容 予習 復習	弥生時代から古墳時代まで。登呂遺跡、吉野ケ里遺跡などを取り上げる。 登呂遺跡や吉野ケ里遺跡の解説動画を見てみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4回	学習内容 予習 復習	飛鳥時代から奈良時代まで。世界遺産の法隆寺、古都・奈良の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・奈良」を構成する社寺につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5回	学習内容 予習 復習	平安時代。世界遺産として登録されている、古都・京都の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・京都」を構成する社寺につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6回	学習内容 予習 復習	平安後期から鎌倉時代。浄土信仰ほか、宗教の民衆社会の広まりについて概説する。 浄土信仰について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7回	学習内容 予習 復習	室町時代。金閣寺・銀閣寺や伝統芸能(能)を中心に、その文化を概説する。 北山、東山文化について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8回	学習内容 予習 復習	江戸時代初期。城郭建築と世界遺産・日光を中心に、17世紀の文化を概説する。 世界遺産・日光の社寺について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習していただくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10回	学習内容 予習 復習	近代的発展の基礎がつけられた時代として江戸時代を捉え、その歴史・文化を概説する。 江戸時代の今日的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11回	学習内容 予習 復習	明治維新の「国際化・近代化」を概説し、同時代の歴史と文化を学ぶ。 明治維新の意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12回	学習内容 予習 復習	大正デモクラシーと当時の「モダンライフ」を総合的に捉え、その歴史的意義を理解する。 大正デモクラシーの現代的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13回	学習内容 予習 復習	戦後復興と高度成長の意義を、「大衆消費社会」という文化的側面から捉え直す。 昭和の時代(とりわけ戦後)の文化的特徴について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14回	学習内容 予習 復習	平成以降の現代を、IT社会とグローバル化をキーワードに捉え直す。 平成の文化的特徴について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習していただくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本国憲法（現代の法律Ⅰ）			科目コード	11090		
英文名	The Constitution of Japan (Contemporary Law I)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探索する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本国憲法についての基本的知識並びに国民主権、人権尊重主義、平和主義などの憲法の基本原理を学ぶ。 授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。						
授業の狙い・到達目標	我が国の社会システムの基本原理を規定する日本国憲法について理解を深め、様々な問題に立ち向かい解決できる人の育成を目指す。 国民主権、人権尊重主義などの基本的な価値観の意味を理解できるとともに、関連する社会情勢についても関心を持ち、自分なりの考え方を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「法律学概論(現代の法律Ⅱ)」がある。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』慶応義塾大学出版会						
参考書・その他教材	e-Gov法令検索 (web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム)						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常生活を通じて、法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

日本国憲法（現代の法律Ⅰ）

1回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3回	学習内容 予習 復習	憲法の定義と目的、憲法の基本原理と構造について学ぶ。 教科書の第1章「日本国憲法とは？」を読んで理解を得ること 授業内容(日本国憲法の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4回	学習内容 予習 復習	憲法に定める人権とはどのようなことかについて学ぶ。 教科書の第3章「人権の制限」及び第15章「新しい人権」を読んで理解を得ること 授業内容(人権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5回	学習内容 予習 復習	人権はどのような場合に制限されるのかについて学ぶ。 教科書の第3章「人権の制限」を読んで理解を得ること 授業内容(人権の制限)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6回	学習内容 予習 復習	憲法に定める「自由」と「責任」について学ぶ。 束縛を受けないで、自らの意思や本性に従う「自由」が必要な理由を考えてくること 授業内容(自由と責任)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7回	学習内容 予習 復習	信教の自由、政教分離の原則について学ぶ。 教科書の第4章「信教の自由と政教分離」を読んで理解を得ること 授業内容(信教の自由、政教分離の原則)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8回	学習内容 予習 復習	表現の自由、知る権利、通信の秘密、プライバシー権、肖像権などについて学ぶ。 教科書の第5章「表現の自由とプライバシーの侵害」を読んで理解を得ること 授業内容(表現の自由、通信の秘密など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9回	学習内容 予習 復習	★学問の自由、教育を受ける権利と義務教育について学ぶ。 教科書の第6章「学問の自由と義務教育」を読んで理解を得ること 授業内容(学問の自由、義務教育制度など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10回	学習内容 予習 復習	婚姻の自由、男女平等について学ぶ。 教科書の第7章「婚姻の自由と男女平等」を読んで理解を得ること 授業内容(婚姻の自由、男女平等など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11回	学習内容 予習 復習	勤労の自由、生存権、財産権について学ぶ。 教科書の第8章「勤労の自由と生存権」を読んで理解を得ること 授業内容(勤労の自由、生存権、財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12回	学習内容 予習 復習	民主主義の原則について学ぶ。 民主主義の政治形態は、どのような原則で実現されているのか考えてくること 授業内容(民主主義の原則)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13回	学習内容 予習 復習	★立法、行政、司法について学ぶ。 教科書の第9章「立法と国会」、10章「行政と内閣」、11章「司法と裁判所」を読んで理解を得ること 授業内容(立法、行政、司法)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14回	学習内容 予習 復習	★地方自治の本旨と地方公共団体の組織・機能について学ぶ。 教科書の第12章「地方自治」を読んで理解を得ること 授業内容(地方自治制度)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15回	学習内容 予習 復習	【まとめ】憲法をめぐる今日的諸問題について学ぶ。 教科書の第13章「憲法9条と自衛隊」、第15条「新しい人権」等を読んで理解を得ること 全15回の授業を振り返り、日本国憲法についての諸課題をとりまとめること

科目名	現代社会と女性（家族社会学）			科目コード	11100		
英文名	Contemporary Society and Women Family Sociology			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）		
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単位数	2単位	
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input checked="" type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	現代社会で大人になることの意味が「女性」と「男性」はどのように異なり、どのように創られているのかについて理解する。また、主に女性がライフステージの各段階ごとに直面する課題やDV、虐待の具体的事例や支援策を知り、主体的に誇りをもって生き抜く力を養う。						
授業の狙い・到達目標	性差がどのように創られているのか、多様性を含め理解する。その上で「女性」がライフステージごとに直面する課題と、解決するための方策を知る。自分がジェンダーをどう捉え、それを踏まえるどのように生きていきたいか、意見をまとめることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	教養科目として基本的な内容である。身近にあるジェンダーについて読み解き、どう生き抜くかを考えアウトプットすることを目指す。関連科目として「職業と人生」がある。						
授業外学習（予習・復習）	各回授業計画に沿って自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容を自分の視点でまとめ、シート提出やグループワークに備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間		
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。						
参考書・その他教材	青野 篤子(編著) 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー」 ミネルヴァ書房 森田 明美(編著) 「よくわかる女性と福祉」 ミネルヴァ書房						
課題に対するフィードバック	配布シートや授業内のディスカッションにおいて、自分の考えが述べられているかについてフィードバックを行う。 また、最終講義でグループワークのフィードバックを行う。						
成績評価方法	講義への取り組み(40%)、課題レポート(30%)、グループワーク発表(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	ジェンダーを取り巻くニュース等を積極的に確認し、女性の生き方について意識を向けること。自分がどのように生きていくかのヒントを得る視点と姿勢を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の業務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

現代社会と女性（家族社会学）

1回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。講義の進め方や全体の概要、記事やニュースを見るとき視点などの説明 シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2回	学習内容 予習 復習	性別はどうして決まるのか、そして誰が決めるのかについて、ディスカッションを通じて考える 指示した文献・資料などに目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3回	学習内容 予習 復習	こどもがどのようにジェンダーを身につけていくか、遊びや物語を通して考える こどもの頃どのような遊びをしていたかについてまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4回	学習内容 予習 復習	こども期から青年期の教育におけるジェンダーについて考える 小学生・中学生時代に、ジェンダーがどのように教えられ、教えられなかったかを考える 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5回	学習内容 予習 復習	青年期以降の学校内外におけるジェンダーについて考える 就職や進学、社会人において男女差があるかどうか調べる 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6回	学習内容 予習 復習	女性が歳をとること、老いることの意味について、ディスカッションを通じて考える 「女性が歳をとること」をテーマに記事や写真を用意する 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8回	学習内容 予習 復習	女性に多い精神疾患について理解する 指示した文献などに目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9回	学習内容 予習 復習	DV、児童虐待について理解する(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) DV、虐待に関するニュースを集め、要因について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10回	学習内容 予習 復習	母娘関係における葛藤、ジェンダーに与える影響について考える(担当教員の实務経験に基づく授業) 自分と母(または母的存在)との関係について、ポジティブ面とネガティブ面について考える 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11回	学習内容 予習 復習	働く女性の活躍と現状について学ぶ① 女性が活躍している社会にはどのような業種や職種があるのか調べる 働くことについて、自分の考えを整理しておくこと
12回	学習内容 予習 復習	働く女性の活躍と現状について学ぶ② 女性が活躍している事例についてインタビューする 自分のキャリアイメージを整理する
13回	学習内容 予習 復習	結婚・家族制度とジェンダーについて考える 結婚願望の有無や結婚の条件について考える 自分の将来イメージを整理する
14回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習と発表に向けての説明 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの講義の論点を整理しておくこと
15回	学習内容 予習 復習	グループワークの発表およびこれまでの講義の振り返り、総括 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 講義を経て自分の考えがどう変化したか、他者の意見を聞いて得たことは何かについてまとめる

科目名	仕事と人生（職業と人生）			科目コード	11110		
英文名	Work & Life (Vocational Education)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探索する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	人生において働く意味を考え、充実した人生を送るために、大学生活をどう送るか、将来の職業にどう繋げていくかキャリアについて考える。女性が仕事をする上で必要な知識、ワーク・ライフ・バランスなど今日的な課題についての理解も深め、ライフプランを作成する。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①:働く意味について理解を深め、職業観を持つことができる。 到達目標②:大学生活と将来について考え、ライフプランを作成することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学での学びを将来に生かし適職につくために、自己研鑽が必要である。「キャリアデザインⅠ」の受講でさらに自己理解を深め、「キャリアデザインⅡ」で、具体的な就職活動に向けた準備を行う事が望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:日常で見かける就労者の仕事内容や態度を観察する。 ニュースを見て時事問題について理解しておく。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次回の授業に備える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間		
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介をする。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	成果物(レポート、履歴書・ES作成、口頭試問など)(70%)、授業への貢献度(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	後半にハローワークより外部講師を招聘して就職セミナーを行う。なお、実施の回は先方の都合で変更となる場合がある。グループワークを行い、自分の意見を述べる機会を設ける。準備を必要とする課題が多いので積極的に取り組むこと。						
科目に関連した教員の業務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to: akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

仕事と人生（職業と人生）

1回	学習内容 予習 復習	働く意味について考える シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2回	学習内容 予習 復習	社会構造の変化と若者の就労 社会構造の変化について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3回	学習内容 予習 復習	働くために必要な法知識(アルバイトを含む)①、働く前にしておきたいこと 事前配布のプリントを読んでくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4回	学習内容 予習 復習	働くために必要な法知識(アルバイトを含む)②、働くときのルールと退職 事前配布のプリントを読んでくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5回	学習内容 予習 復習	産業分類・職業分類 興味のある産業、企業、職業などを書き出しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6回	学習内容 予習 復習	大学生生活の過ごし方 これまでの授業を振り返り、大学生活に必要なことを考えておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7回	学習内容 予習 復習	将来の仕事に必要な資格 将来の仕事について考え、その職業に就く場合に必要資格を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8回	学習内容 予習 復習	女性のキャリア形成 男性と女性のキャリアの共通すること、異なることについて考えておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
9回	学習内容 予習 復習	女性の働き方とワーク・ライフ・バランス ワーク・ライフ・バランスについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10回	学習内容 予習 復習	大学生の就職活動——ハローワークセミナー 事前に内容を伝えるので準備をしておくこと。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11回	学習内容 予習 復習	ライフプラン① ライフイベントについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12回	学習内容 予習 復習	ライフプラン② ライフプランの続きを作成してくる。 ライフプランを完成させ、作成する上で考えたことをまとめてレポートを作成して提出する。
13回	学習内容 予習 復習	自己理解・他者理解 自分の得意な事、苦手な事を書き出してくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14回	学習内容 予習 復習	大学生生活の目標設定・発表 「大学生生活の目標と計画」の発表を行う準備をしておくこと。 発表後の気付きを加えて、レポートにまとめ提出すること。
15回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り・まとめ これまでの授業を振り返り、レジュメを見返しておく。 全15回の授業を振り返り、仕事と人生についての考えをまとめる。